

このたびの東日本大震災で被害に遭われた多くの方々にたいしまして、心からお見舞い申し上げます。

# DAIWA LETTER

少年  
コミック  
猫の手包装応援記

(茨城県) ブックエース東海店

(福島県) みどり書房桑野店

(宮城県) デンコードー仙台南店

復興特集



地元に愛されてやまない町の本屋さん

東 今野書店

西 ヤシマ書店

professional [プロフェッショナル]

谷島屋 営業本部 浜松営業部

副部長 中土居 一輝 さん

特派員古瀬の現場に密着ルポ  
書店員さんのコト技ご紹介

スゴ過ぎるPOP編



特派員古瀬の現場に密着ルポ  
書店員さんのコト技ご紹介  
今回のスゴ技はPOP。  
特派員が街角で発見したスゴ過ぎるPOPをご紹介！



芸術編

TSUTAYA  
東京上野店  
相川さん作



←な…なにコレ！階段を登りコミック売場に入った瞬間に迎えてくれたのがコチラ。さらに奥にはコチラ！誰もが足を止めて作品を手にとってしまいたくなるPOP。是非一度足を運んで生の衝撃をご堪能あれ！

「パラキス」の映画上映に合わせPOP棚を製作♪  
破れかかったクロスにミシンの糸、蝶のオブジェ…。映画の一場面を彷彿させます！  
実はこのセット、全て100円均一でご用意されたとか☆  
素晴らしい節約技◎



衝撃編  
ブックポート203  
鶴見店  
鈴木副店長作



そつくり編  
宮脇書店 朝霞店  
橋本店長作



←こちらは売り物ではありません！本物のフィギュア顔負けの「よつば」は、なんと廃材となった発泡スチロールを、目の細かいやすりで丹念に削り作り上げたもの…！  
製作期間はいったいどのくらいなんでしょうか（笑）

【読者の皆様へ】

読者ページ  
お題：「書店員とは○○だ！」

&その理由も添えてください

特派員古瀬の現場に密着ルポ  
書店員さんのコト技ご紹介  
を引き続き募集しております！

●応募方法●

- ①弊社営業担当を通して：営業のご訪問時にお伝えください
- ②メール：ideguchi@daiwa-hi.co.jp 担当/出口
- ③FAX：03-3558-8132 担当/出口

今年の社員教育の課題本にステイソン・R・コヴィー著「7つの習慣」を取り上げました。ベストセラーなので読まれた方も多いと思います。最初に気付かされたのは、自分の人生にとっての「重要事項」についてでした。従来の時間管理のツールでは緊急度の高いものから順に行うよう仕切っています。毎日の生活の中で優先しているのは緊急に対応しなければならないことが圧倒的です。そのことが重要事項であれば良いのですが、緊急はあるが大して重要でないことに時間を割いていることが多いことに気づきました。

時間の使い方を4つの領域に分け、「重要度と緊急度のマトリックス」で説明しています。第一領域（重要かつ緊急）、第二領域（重要かつ緊急でない）、第三領域（重要でなく緊急）、第四領域（重要でなく緊急でない）。読み進める前までは、最優先しなければならない重要な事項は当然「第一領域（クレーム処理、締切のある仕事）」であると思っていました。しかし「第二領域（豊かな人間関係づくり、勉強や自己啓発、準備や計画）」が最優先すべき重要事項であると記しています。勿論、第一領域の時間は割かないわけにはいけませんが、その活動の多くは重要なことに着手するのが遅れたり、予防や計画が不十分だったりした結果対処しなければならなくなつたものである。

そこで第二領域の目標を行動に移すには、優先課題としてスケジュールに入れる説明に、大きな瓶とそれに詰める大きな石（第二領域）、砂利や砂や水（第三領域や第四領域）の話は説得力がありました。第三領域や第四領域の活動（砂利、砂、水）を先に入ってしまって、それから大きな石を入れようとしても入らない、大切なことは大きな石（第二領域）を最初に入れることである。確かにそう思う。

そして「生きること、愛すること、学ぶこと、貢献すること」という4つの重要な基本的ニーズを満たす為に、自分のそれぞれの役割（父親、経営者、趣味等）の中で、優先的に重要な活動を実行することで質の高い生活を手に入れたいと思つた本です。

社長のつぶやき

代表取締役  
大石 孝一



ミクス品  
FSC森林持続管理認証  
森林から社会までつなぐ  
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-003822  
© 1996 Forest Stewardship Council

東京本社：〒174-0043 東京都板橋区坂下1-34-27  
TEL 03(3558)8131(代) FAX 03(3558)8132  
大阪支店：〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-2-1  
TEL 06(6190)5731(代) FAX 06(6190)5732



A collage of three photographs from different bookstores. The top photo shows several people standing in a bookstore aisle. The middle photo shows a person wearing a green t-shirt with a graphic on it. The bottom photo shows a person wearing a red t-shirt with a graphic on it. Overlaid on these images is large, stylized Japanese text in blue, yellow, and pink.

ダイワハイテックスでは被災された書店様への支援として、被災により再度包装が必要となつたコミックの包装をお手伝いさせて頂きました。本紙面では3店舗様の復興オープニングに至る道のりをご紹介します。



★こぼれ話★

▲復興オープン当日。夜9時を過ぎても  
ご覧の通り駐車場は大混雑。大盛況のオ  
ープン当日でした！

震災後再びオープンするまで約3ヶ月かかりました。駐車場が満車になり道路まで渋滞となりました。平日にも閑わらず多くのお客様にご来店して頂いたことに深く感謝しております。オープン後1ヶ月が経ち、お客様の入りは落ち着いてきましたが、売上は前年比で微増となつております。スタッフも震災の影響で入れ替わざるを得ないという困難な状況もありましたが、これからもお客様に愛される店作りにスタッフ一同努めて参ります。

元々売上の良かったコミック売場と児童書売場を拡大しました。コミック売場は什器を平台付きのものに替え、さらに2列38スパン増やしました。お子様連れのお客様が多い児童書売場は低い什器を設置し、かわいらしく過ごしやすい売場を作りました。

震災後4月8日までにスタッフで店内の片付け・返品作業をしました。しかし現状でのオープンが不可能だったため、5月6日より改装オープンの工事が始まり、その間社員・アルバイトは他店で面倒をみてもらいました。什器の並んだ5月24日から4日間で、C.C.Cさん、日販さん、MPDさん、地図共販さん、ダイワハイテックスさん他様々な業者さんとブックエース全ての店舗・本部の力を借りて5月28日にオープンすることができます。

地震直後20分も経たずに吊り下げ型の蛍光灯72個がすべて落下・破損し、その反動で壁、天井も剥がれ落ちました。レジ数台も破壊され、什器がほとんど倒れたため、商品の9割は落下しました。

店外では十数kgもある店舗外灯の安定器が8個落下し、トイレも破壊寸前でした。



【店舗DATA】 ブックエース東海店  
売場面積：80坪  
書籍蔵書冊数：6万4000冊  
住所：茨城県那珂郡東海村船石川駅西3-14-14  
TEL：029-283-3113  
MAIL：toukai002@bagr.co.jp  
営業時間：9:00～24:00

—オープニングにあたり一番力を入れた

本当にたくさんの方々の力で、再び、とうか生まれ変わったブックエース東海店をお客様にお見せすることができました。携わって頂いたすべての方に深い感謝の気持ちでいっぱいです。

「ブックエース東海店と出会うことができて良かった」と皆さまが思ってくれるようなお店にしていきたいと思いますので、今後とも



## 震災後どのような経緯で オープンに至りましたか

何から手を付けていいかわからない状況の中、片付け、返品作業で4～5日の時間を費やしました。CCCさん、日販さん、MPDさんなど取引先様も大変忙しいにも関わらず協力して頂きました。

また以前は店舗の2階に構えていた本社を震災により仙台市内に移転せざるを得えない状況下で、オープンを迎えることとなりまし

天井があちこちで落下した後、停電と同時にスプリングクラーが誤作動し、商品だけではなくスタッフも水没しになりました。足の踏み場もない中、スタッフで当時30名ほどいらっしゃったお客様の誘導を行い全員の無事を確認することが出来ました。定期的に消防訓練を行っていたことが功を奏し、スマーズに避難することができました。



○

お店にしていきたいと思いまますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

これまでには本・レンタル・セルCD・ゲームの4部門でやつっていましたが、本・レンタルの2部門に絞り、それぞれの売場を拡張しアイテム数※・展開に力を入れました。  
（※本部門 雑誌／1万7千冊、コミック／1万5千冊、書籍3万2千冊）



6/8  
復興  
OPEN

A worker in a bucket truck is performing maintenance on utility poles. The worker is standing in the bucket, reaching up towards the top of a pole. The truck is green and white. In the background, there are utility poles, power lines, and a cloudy sky. A small sign on a post says "止まれ" (Stop). The image is taken from a slightly elevated angle, showing the worker's actions clearly.

A photograph showing two construction workers in a bucket truck at a work site. One worker is standing in the bucket, while the other is on the platform below. They are wearing hard hats and safety vests. The background shows some trees and a cloudy sky.

多くのお客様から「オーブンするのをずっと待っていました!」と一言言って頂けるのが何よりも嬉しいです。お陰様で売上も前年を上回る勢いでございます。これからもお客様から支持され愛される店作りを関係各位お力添えを頂きながら進めて参ります。

た（柱は倍の大きさになり、梁・壁にも補を入れました）。

また入り口前方の棚を低くし、後方にいたり、つれ徐々に棚を高いものにすることで、舗全体を見渡すことが出来るようになります。主導線も広く取り、お客様にゆっくり、過ごし頂ける空間をご提供することが出来ようになつたので、大変好評頂いています。

——オーブンにあたり一番力を入れたところを教えてください



# professional

[プロフェッショナル]

谷島屋 営業本部 浜松営業部 副部長

## 第13回 中土居 一輝

“数字だけでは計れない、売場の声も生かすことが  
出来てこそその営業本部である”



谷島屋 営業本部  
浜松営業部 副部長  
なかだい かずき  
中土居 一輝さん

浜松市出身。書店員歴12年。大学進学に伴い名古屋へ移り、卒業後はそのまま製造卸会社に入社。2年で退職した後浜松に戻り現職に就く。7店舗で店長を経験し、今年6月より浜松営業部副部長に抜擢される。趣味は野球。父の影響で大の広島東洋カープファン。浜松唯一の私設応援団員にも名を連ねる熱の入れよう。

本年7月1日に市制100周年を迎えた浜松市。さらに遡った1872年、旧浜松町（現在の浜松市）に創業したのが谷島屋である。静岡県内に25店舗を構える老舗書店は“老舗意識を廃し新興店としての意気に燃え「常に新しい店」たらんとす”という企業理念の下、新しい事業に果敢に取り組む。今年6月、新たに本部経営の一員として加わった中土居さんにお話を伺った。



書店員になつたきっかけを教えて下さい。

一見さんも多く、このコミックの存在を知らない人がほとんどではないか、という分析がありました。何度も試行錯誤を重ねて売り続けたところ、半年間で250冊ほど売ることができたんです。これはリピーターの多い書店では難しく、一見さんが多い書店ならではの戦略ですね。「この本見たことある?」、「この本も好きでしょう?」と、もう一冊手にとって頂けるような売場展開を目指していました。

2年で退職した後『最後の夏休み』と称して、貯金・退職金・失業手当で一年ほど国内海外旅行の日々を送りました。一番印象に残っていることは、アメリカに30日間滞在し30試合メジャーリーグを観ようと毎日各地を飛び回ったことです。お金が尽きた頃、名古屋から浜松に戻り谷島屋でアルバイトを始めました。もともと本が大好きで小学生の頃から空き時間を図書館で過ごしていました。それがきっかけだったのでしょうか。そのまま一年後に自然の流れで社員となりました。

店長として売場を任せていた時、印象に残っていることを教えて下さい。

本部では主に仕入と店舗支援という二つの役割を担っています。まず、仕入では売れている本、売りたい本を見極め、スタッフが不足している店舗の仕入れを行っています。僕がまとめて発注すればものの10分で終わってしまう作業を、例えば僕が担当する20店舗の店長が5分ずつかけて行うとしたら、これだけで100分のロスとなり非常に効率が悪い。これまで発注に費やしていた時間を店作りに充てる事ができますよね。



▲荒川弘（著）  
「百姓貴族」新書館

版元さんから薦められた本を本部で仕入れて、それを上から下に流すだけではなく、出来る限り月に一度は担当している店舗を全てを訪問し、外部の視点から売り方のアドバイスをしたり、逆に良いと感じたディスプレイは他店舗に紹介しています。（左ページ写真参照）

今後の展望を教えて下さい。

本部に異動になつてからも、またレジに立ちたいと何度も思います。パソコンがはじき出す数字で、全てを把握できるわけではありません。売場に立ち耳を澄ませば、お客様がどのような本を求めているのか聞こえます。ここは営業本部と売場（浜松本店）が直結している珍しい作りです。おそらく社長、専務も数字だけでは計れない、売場の声も生かすことが出来てこそ営業本部である、という同じ想いなど理解しています。夏が終わるまでには未だ足を運べていない富士地区の店舗に行かなれば、と思っています。

もう一つ、常連さんだろうが、一見さんだろうが、親御さんについてきたお子さんだろうが：一冊でも多く手に取つてもらう、三回店を訪れた後、一度は買つて頂ける書店にしていきたいです。そのためにも、特に児童書、コミックの中身をオープンにしていきたいです。子どもは表・裏の絵と何となくの口コミという限られた情報と、限られたおこづかいの範囲で本を選んでいます。中身を見られず、泣きそうな顔をしている子どもが「本を選ぶ」という間口を広げてあげたい。そのためにもできるだけ多く版元さんから見本の冊子を仕入れたり、こちらで分かる範囲で中身を要約して示してあげたいと考えています。

担当している書店で目に留まったPOPは写真に納めて他店舗に紹介



To. お客様  
Sub. レインツリーの国  
Text.  
会つことのないキミが  
どんな人か知りたくなりました。  
そんな気持ちでこの本を手に取りました。  
From. 文庫担当



▲コミックを途中まで読めるようにと愛情がこもった手作りの見本コミック



▲見本が多くあり、子どもの好奇心をくすぐる絵本コーナー

**CARP × 谷島屋**

実はダイワレター担当の出口も  
熱狂的広島ファン♪カープネタ  
で盛り上がってきました！  
頑張れカープ♪

まるでここは広島か！？と勘違い  
してしまうほどカープ一色。  
「基本的に自分がいる店舗には導入」  
してきたそうで、これらを求めて毎々  
愛知の岡崎からいらっしゃるお客様  
もいるとか…！！



平日は版元さんとの連絡を取り合うち、  
あれもこれもやりたいで、気づけばこのような机に…  
版元さんがお休みの日曜日に溜まった仕事をこなし、新たな  
気持ちで月曜日を迎え、火曜日にはこうなっています(笑)  
(ちなみに取材は火曜日でした！)

“professional”【プロフェッショナル】へのご感想や、今回取材した中土居さんへのメッセージを募集しています。宛て先：〒174-0043 東京都板橋区坂下1-34-27 無ダイワハイテックス「ダイワレター プロフェッショナル」係まで！(e-mail : info@daiwa-hi.co.jp)でも承っております！

谷島屋 中土居副部長  
**いちおし★BOOKS**



### 「ジェノサイド」

高野和明（著）  
角川書店

◆作品解説◆

創薬化学を専攻する大学院生・研人のもとに死んだ父からのメールが届く。傭兵・イエーガーは不治の病を患う息子のために、コンゴ潜入の任務を引き受ける。二人の人生が交錯するとき、驚愕の真実が明らかになる——。

★オススメの理由は？

「ジェノサイド」を日本語訳すると「大虐殺」。タイトルは怖いかもしれませんが、とにかく読み始めたら止まらない。一夜漬けで読破しましたが、その夜飲んだことを後悔しました(笑)伏線もしっかり張っており、読後感も良い。是非一読してみてください。

